

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみどりが丘
(ユニット名)	グループホームみどりが丘
所在地 (県・市町村名)	五島市木場町570 - 4番地
記入者名 (管理者)	堀 木 幸 枝
記入日	平成20年 9月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		地域密着型サービスの意義を職員全員で理解を深めたい。又、その方のこれまでの生活を重要視し、関係性の継続も含めその方らしく生活できるように支援する。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの見学、体験学習の依頼等があったときは、積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価を行い、業務の見直しを行なった。また、前回の結果を踏まえ改善策を職員で検討し、取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の報告や、質問、意見、助言等を柔軟に受け止め、情報提供をして頂いたりし、双方向的な会議になるように配慮している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿介護課の担当者への随時の書類提出や電話をしたり、又社会福祉協議会の職員の方とも情報交換をしている。積極的に接する機会をつくり、サービスの向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合には、ご家族にも情報提供し活用出来るよう支援を行っている。職員全体では、権利擁護の勉強会も行い、知識として理解を深めるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織全体で虐待防止委員会があり、全職員、事例を通し勉強会を行い、高齢者虐待法に関する理解や知識を深めている。		高齢者虐待法など、職員の知識や理解を深める、そのような事が起こらないようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り、懇切丁寧に説明している。利用料金の内訳、高度化になられた場合、医療連携体制等詳しく説明している。納得していただき、同意書を得るようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で、利用者様の言葉や態度からその思いを察する努力を行い、利用者様の意思を尊重するようにしている。些細な事と考えず、職員で話し合い、対応策を考えるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月グループホーム便りを発行したり、生活の様子や出納簿の写し等も送付し、確認して頂き、御家族も安心されていた。さらに充実した金銭管理をするようにした。</p>	<p>利用者様からの預かり金の対応の改善策として、面会に来られたご家族様(保証人)に使い途を説明し、自筆のサインや印鑑を頂くようにした。金銭管理が確実に、信用にも繋がった。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃の面会時、電話での対応時(緊急時、荷物が届いた時等、様子伺いの電話)、家族交流会には、何でも言える雰囲気作り心がけている。職員がご利用者様の状態把握を行い、どの職員でも対応できるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な職員会議や日常で起こった問題解決時、気づきはないか等職員の意見を聞くようにしている。また、日頃のコミュニケーションを十分に取ながら、職員間の連携を円滑にしている。連絡帳の活用、日々の記録を通し、情報を共有するようにしている。出勤後は、必ず、確認するように取り決めを行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の個別の生活のペースを崩さないように、状態に合わせたローテーションを組んでいる。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員によるケアを継続できるように心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や毎月のOJT研修で知識や技術を習得できる体制を整えている。外部への研修参加もある。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホーム連絡協議会がある。必ず、参加しており研修をしたり、他施設との情報交換を行い、質の向上に励んでいる。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面接時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。気分転換できるよう休憩室を確保し、人間関係を把握したりするよう努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場で活かせる環境作りに努めている。人事考課を一年に2回実施。自己評価を行い、自己啓発、職務への意識を高め、質の向上に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時は、本人、生活状況を、関与機関からの情報を得たり、直接、面会して不安なことや悩み事、要望、希望などについて、その方の思いを受け止め、安心して頂けるように接している。入所後の生活の不安を軽減できるように努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話をよく聞くようにしている。どのような対応が出来るのか、スタッフにも伝えたり、事前に話し合いをするようにしている。ご家族様の思いを大切にして、今後も家族の信頼関係を継続できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実態や要望をもとに、必要に応じて他のサービス利用の調整を行ったり、他の職種との連携を図りながら柔軟に対応を行い、要望に沿うように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には、本人や家族にホームを見学していただいたり、職員が事前に連絡し、自宅へ説明に行くなど、徐々に馴染んでいただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いに関心を寄せ、苦しみ、悲しみ、喜びなどを知る事に努め、生活の中で分かち合い、共に支えあう関係作りに努めている。また、人生の先輩として尊重し、和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子を家族に詳しく伝えたり、ご家族からも情報を提供して頂きながら、ご家族と一緒に支えていく関係を築いていけるように支援している。「自宅での暮らしぶり」や介護方法を教えて頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の双方への思いを大切にしている。面会時等は、潤滑油になるように心がけてる。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が思いを寄せている「物、知人、親戚」等との信頼関係を崩さないように心がけている。知人宅へ遊びに出かけたり、墓参りに出かけたりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	心身の状態や気分、感情で、トラブルにならないように注意している。日常生活においても、お茶の時間、余暇時間等は、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。(利用者様同士の境遇をお互い、理解できるようにしている)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業者へ移られた方とは、外出先でお会いしたり、担当ケアマネとも情報交換を行っている。入所中に、築きあげた信頼関係を継続するように努力している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりを大切にして、些細な事も見逃さないように注意している。利用者に希望や要望、苦情について伺いながら把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにして、協力をお願いしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅に事前調査に行ったり、ご本人、ご家族、関係者などから情報を得るようにしている。入居後も面会時など、関係機関やご家族から情報を提供していただき、スムーズに生活できるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムを把握したり、趣味活動、生活習慣はないか等日頃の生活の様子から全体像を把握するようにしている。好きな事、できること、得意としていた事等、安定した日常を送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、思いや希望を伺ったり、職員間の情報を得ながらケアプランを立案している。毎月、職員全員でケアカンファレンスやモニタリングを行っている。計画内容についてはファイルにして全職員がいつでも見れるようにして、サインをしたり、統一したケアを支援できるように努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	これまで、半年に1度具体的な介護計画を作成していた。ご家族、本人にも相談・希望を伺いながらケアプラン作成を行っていたが、現状に即した介護計画ではなかったため改善するようにした。		日々の記録の活用や、職員間の情報交換の場を増やし、情報提供収集を随時に行うように努めた。この情報を介護計画にも反映させ、3ヶ月に一度介護計画を作成するように取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、食事・バイタルチェック・入浴・ケースなど記録し、保管している。職員の気づきや利用者の状態変化は、申し送りノートや、日々の記録において、職員間の情報共有を図るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ、随時に、電話での相談を行いながら、必要なサービスを必要な状態に、臨機応変に柔軟に対応している。医療連携体制を活用して、受診や、入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	時々の警察の巡回も行なわれている。消防についても、年4回の避難訓練や(自主訓練含む)、器具の点検を行い、安心した生活を送れるように支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域以外のケアマネジャーと連絡をとり、サービスの状況の確認している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には、そのようにしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階がクリニックであるため、いつでも受診できる体制である。状態変化時は、随時に報告を行い、週に一度の往診、毎月の採血検査で状態を診てもらっている。急変した時は、ホーム内で点滴などの医療処置を行っている。年一度の定期健診では、レントゲン胸部撮影を行っており、結果報告もご家族に報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	総合病院の精神科に定期的に受診している。家族が付き添いができない利用者様は職員が付き添っている。状態変化時には、担当医に随時に報告をしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、常に、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。変化時の記録、確実な連携を行うように、スタッフ全員で利用者様の健康管理に努めている。必要時には、心電図、エコー検査、MRなどの精査も行っている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、看護師や嘱託医を通して病状の把握を行っている。ご家族とも情報交換を行ったり、回復状況を伺う等速やかな退院支援に向けて必要な支援をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から、緊急時、終末期の希望なども家族に確認している。重度化に対する指針を決め同意を得ている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで対応できる最大のケアを説明している。急変時は、看護師、嘱託医を交えて話し合いを行なっている。状態の変化があるごとに、家族や本人安心して頂けるように、支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に留意し、これまでの暮らしの生活の継続性が、損なわれないように、情報提供を行いながら配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個別ケアの重要性をスタッフが理解し、あらゆる場面において、個性を尊重した言葉かけ、さりげない介助を行っている。利用者のプライバシーの確保について日頃より徹底指導を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>お一人、お一人の体調に配慮を行い、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、趣味活動等も無理強いせず、少しでもできるように意欲向上へ向けて、個別性のある支援をおこなうようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のペースで、本人が望む過ごし方が出来るように支援している。そのためにも個別の希望を把握しながら対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>体調、気分を考慮している。希望や要望がある時は、馴染みの美容室へお連れしたり、近所の美容室に連絡をしたり、一人、一人にあった方法を取り入れている。衣服についても、好みの衣服を着ていただくようにしている。(家族からの贈り物の衣服等)</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様の状態が安定したら、職員も一緒にしたいと考えている。食事作り、食材選びなども食事をする事の楽しみ方であるとして一緒に行うように努めている。</p>	<p>見守り体制を整え、行事食や外食時を職員も一緒に食事する事から取り組んでいる。食事作りには、積極的に関わってもらえるようにした。食を一緒に楽しむ事を、食材選び・旬の野菜の収穫・皮むき等利用者様と一緒にできる事に取り組んでいる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は、一人ひとりの好みを把握するように、日常を接している。知り得た情報はスタッフ間で共有しながら、個別のサービスを提供している。(おやつ、人形、折り紙、ラジオ、裁縫、等)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を毎日チェックし、排泄状況の把握をしている。その方にあった排泄介助を行い、快適に過ごせるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できるようにし、入浴の順番等、入浴状況は、公平になるように、利用者様達が見える位置の白板に記入している。プライバシー保護の為に、完全に入浴されるまでは、出入りをしないようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝できない時は、その理由をよく聞き、不安なく入眠できるようにしている。水分補給をしたり、又、日中は離床し、活動できるように働きかけている。生活にメリハリをつけて、安眠できるようにしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の趣味、得意とする事はないか観察したり、ご家族様からの情報を得るようにして、気分転換できるようにしている。「何かをしたい、してほしい」気持ちを言える雰囲気を作り、楽しみのある日常生活になるよう努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方に合わせて金銭管理をしていただいている。財布を持参する事、ご自分で支払いをする事で安心されている。スタッフは、その方の力量を理解して、金銭管理への支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の気分や希望に応じて、買い物、ドライブ、散歩に出かけている。本人様に合わせた方法で外出の支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	食事会やハイキング等事前に計画を立てたり、母体施設の「運動会、納涼祭、文化祭」には、ご家族にも案内し、一緒に過ごして頂いている。自宅訪問、知人宅への訪問、受診の際にも、ご家族に依頼するときもあり、ご都合を伺いながら外出の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーには十分に配慮している。特に、電話利用時には、スタッフも傍にいて話を聞いたりしないようにしている。利用者様の希望に応じて、日常的に電話や手書きを出せるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間は、特に定めてはいない。仕事帰りや、ご都合の良い時間にこれるように配慮している。訪問時は、お茶やお菓子を出し、居室で一緒に過ごして頂いている。宿泊の希望があれば、そのようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的苦痛、精神的弊害を全職員が理解し、身体拘束をしないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間の戸締りのみである。日中はレクリエーションや趣味活動、買い物、外出等を行い、昼間は、できる事の支援を行い日常生活を活動的に過ごせるように支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	そのようにしている。時間帯を考慮しながら、見守り、付き添い等危険度の高い場を離れる時は、職員間の申し送りを含め連携を密に行なっている。その意識付けも職員同士、徹底している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく利用者の状態に合わせて、危険を防ぐための対応やケースに応じた対応をしている。厳重保管が必要な物は保管する場所を決めている。職員間で話し合っ、周知するようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防止する工夫に取り組んでいる。施設全体では、リスクの勉強会、介護技術の勉強会、看護研修等もあり、技術や知識を学んでいる。又、事故報告書、ヒヤリハットも、活用し、再発防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設全体で、救急・応急の訓練を実施。職員も参加し、体験、体得、習得するようにしている。(消防署・救急救命士の指導)施設全体で緊急時のマニュアルを作成し、急変時や、事故発生時に備えており、どの職員でも対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回利用者と共に通報・避難・消火訓練を行っている。火災に備え、スプリンクラーを設備予定。施設全体では自然災害時の訓練を行っている。しかし、災害後の体制について不十分なため、検討するようにした。		災害後の避難場所は職員間でも把握している。生活必需品等については検討中。医療面については、どのような時でも対応できる体制である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとり起こりうるリスクについて、ご家族にも報告したり、改善を得られるように情報交換をしている。都度、状態の変化に伴い、家族にも対応策を説明しながら支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を職員は把握しており、体調の変化が見られるときは、看護師や医師に連絡している。職員間で共有し、記録や申し送りを確実に行うようにしている。些細な変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を確実にこなしている。個別にリストを作成し、全職員が薬の内容を分かるようにしている。処方に変化があった時は、申し送りを記録をとるようにしている。医師の指示に従い、内服できるように支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動や食物繊維の多い食材の利用などを多く取り入れている。下剤については、嘱託医へ排便状況を報告し、相談しながら量の調整を行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。必要時には、ご家族にも相談、報告を行い、歯科受診をできる体制をとっている。協力歯科医院もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に摂取量を記録し、職員が情報を共有している。お一人、お一人の摂取量や水分摂取量、栄養状態を、一日全体を通じておおよそ把握している。食事摂取が困難な時は、主治医へ相談している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを用意し、知識や理解を深めている。看護研修、リスク委員会、感染症委員会などの、勉強会にも参加している。一ケアー手洗いに取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は、台所の水周りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。食材は、新鮮な食材を購入している。冷蔵庫の整理を、定期的に行なうようにしている。賞味期限、消費期限に、注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関やホームの廻りや、ベランダには、利用者と一緒に花壇や野菜作り、切花にしたり、種まき、草取り、収穫の喜びを味わって頂けるようしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節の花や小物などを飾り、茶筆筒、ローチェストを置き家庭的な雰囲気になるように配慮している。マッサージ機を置き、いつでも使用できるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	要所には、椅子、長椅子を用意し、一人で景色を見て過ごしたり、時間帯に応じて、テレビをつけたり、BGMもその場の雰囲気にあった曲を流すようにしている。ゆっくりと仲間同士で過ごして頂いたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品、好きな雑誌、使い慣れた眼鏡、手工芸用品を持ち込んで、本人が居心地よく過ごしやすいようにしている。ご家族の思いもあり、直接持ち込んだりされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭気対策、空気の入替えには、特に留意している。季節の変わり目には、日中でも温度差が大きいため、配慮している。又、空調の清掃も定期的に行なっている。感染症予防委員会もあり、感染症についての勉強会に参加している。感染症予防マニュアルを用意し、知識と理解を深めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにあわせて、要所に応じて移動しやすいように手すりを設置している。希望があれば、畳を持ち込んで頂き、その方の身体機能にあった安心して移動したり、くつろげるようにしている。生活の様子を継続する事で、安心してしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の状態に合わせた環境整備を行い、混乱や失敗で自信をなくさないような支援に努めている。その時、その時の声かけにも自尊心を大切に、したいことやできる事への支援を行なっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの脇に花壇を作り、季節の野菜や草花を植えている。また、玄関周囲、ベランダには、観葉植物やプランターを置き、季節に合わせて草花を植え替えしている。又、贈り物の鉢植えを居室内で育てたり、自宅より思い出の鉢を持ち込んで育てている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

基本的（接遇、技術、知識を含む）な介護技術を、全職員が習得できるように、年間を通し「到達度勉強会」を実施している。